

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

協議会議事要点録				
会議名	平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会			
日時	平成27年11月26日（木）13時30分～15時40分			
場所	三高会館			
傍聴者	2名			
出席者	県立広島大学	名誉教授	のほら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教授	おかやま まさと 岡山 正人	×
	江田島バス株式会社	代表取締役	はすだ つとむ 蓮田 勉	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	すぎい くみお 杉井 公美雄	○
	広島県旅客船協会	会長	にった いちろう 仁田 一郎	代理出席 松山 生馬
	瀬戸内シーライン株式会社	船員代表	たにぐち みのる 谷口 実	×
	広島県タクシー協会江能支部	支部長	いまみや こうじ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会長	はまなか しげみ 濱中 繁美	○
	江田島市老人クラブ連合会	会長	ふるもと さねき 古本 眞機	×
	江田島市社会福祉協議会	会長	なかむら ひろまさ 中村 博政	○
	江田島市女性会連合会	会長	しもだ とよこ 下田 豊子	○
	江田島市観光協会	会長	いとう ふみお 伊藤 富美雄	○
	中国運輸局海事振興部旅客課	課長	ひらお よしひろ 平尾 嘉宏	○
	中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	ひらが てつじ 平賀 哲二	代理出席 櫻井 康彬
	広島県地域政策局地域力創造課	課長	きむら ひろし 木村 洋	代理出席 藤田 順子
	江田島警察署	地域交通課長	こにし まさき 小西 正記	×
	江田島市	副市長	どて さんせい 土手 三生	○
	江田島市	企画部長	しまづ しんじ 島津 慎二	×
江田島市	土木建築部長	きむら なりひろ 木村 成弘	○	

1 開 会	
事 務 局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	会長あいさつ
3 議 題	
協議事項「江田島市地域公共交通網形成計画の策定について」 ・各種調査結果と江田島市の公共交通の現状について（資料1）	
受託事業者	－資料1により説明－
議 長	ただいま、事務局から報告がありました。 本件について、ご質問及びご意見などはございませんか。
委 員	調査して、色々と課題を挙げていただいています。市役所からの委託事業者によるまとめということですか。
受託事業者	そうですね。
委 員	色々とあるんですが、とりあえず37頁の「市内おけるバスの利用状況」のところで、「利用の多くは小用～ゆめタウン前～大柿」、「西側の利用は非常に少ない（サービス水準も低い）」と書いてある。誤解を受けると非常にやりにくいんですが、利用が多い方の記載はよいが、「江田島バスのH27年度利用実態調査結果より」と書いてあるが、この調査はうちが行ったものですよね。この調査は、ここに書いてある「サービス水準も低い」というものではなく、どこからどこまで何人乗ったという数字だけ、乗客の数だけを確認しております。調査項目の中にサービスの水準が良いか悪いかという項目は入っていないのに、誤解を招くといけけないので、なぜ「サービス水準が低い」という言葉が入っているのかが一つ聞いてみたい。
受託事業者	こちらの記載方法で誤解を招いてしまったのなら申し訳なかった。便数があるのに利用していないのか、便数が少ないからその便数に従って利用が少ないのかといったことをはっきりさせたかったので、こういう風に表現してしまった。利用者の方が、サービス水準が低いと言っているのではなくて、事務局の方で、そういう観点から書かせていただいている。
委 員	それは利用状況ですので、特にそういった項目があれば記載するのも分かるんですが、当社としては平等にサービスを提供していますので。今日も乗務員に確認をしたところですが、「西側はサービスを悪くしているのか」と。「いや、同じように走っております」と言っていた。 それから、この資料1には実態を書いているのは分かるが、これからどうして行くのかという具体的な対策案が提示されていない。誘導していく段階ではなく、とにかく実態調査という風に捉えておられるのか。いっぱい書いてあるが、聞かなくても分かっている。普段からお客はおらんし、売り上げは上がらんし、弱りながらやっているのを、ここに全部表現していただいているので、せっかく

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>税金で1千万円以上の委託料を支払っていますので、こうすれば具体的に打開できますよというよう案を挙げていただく方が私らは非常に参考になると思う。それがすぐに分からないのであれば、お宅にノウハウがないのであれば、よその市町、あるいはよその事業所での成功例を色々と紹介していただいて、その中で江田島市の事業者に合うような成功例を教えていただいて採用しつつ、なんとか改善していきたいと思う。江田島市は海に囲まれた独特の島で、くねくねした道で、船も広島や呉へ行っているということで、全国的にもこういった市というのはないんですよ。そうかと言って、過疎手当をもらおうとすれば、橋が架かっているし。非常に苦勞しているんで、そういった点で具体案を示していただくと非常に助かる。</p> <p>細かい点は、私の方でいっぱいメモをしている。これを聞くとイヤらしいので、今のような言葉で話を終わります。</p>
<p>受託事業者</p>	<p>今日時点では、まだ具体案は出ないが、恐らく議事2の説明の中で方向性の部分が出てきます。恐らく事業者さんにとっては、常日頃から関わっておられることなので、どういう問題があるのかということについては、認識されていることがそのまま出ているんだと思います。そういう中で、始めて聞かれる方もいらっしゃいますので、事業者さんにとっては「分かっている」ということになってしまっていますが、あえて載せております。あと、具体的な対策案につきましても、現時点で、何か対策をするにしても、事務局だけで動けるものばかりではありませんので、事務局の方で案は検討しているんですが、今後、事業者さんと話し合いをしていく中で計画に反映させていくという流れになります。具体的に計画をこうするんだというところの説明までは、今日は出来ない状況であるということをご理解いただければと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>対策案のことは分かったんですが、サービス水準が低いという表現は人に誤解を与える部分なので、別の言葉に置き換えていただくなり、検討していただくようお願いいたします。</p> <p>他に、事業者側ではなく、利用者側でご意見等ありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>市民として、日頃、バスを利用せずにマイカーを利用しているんですが、なぜマイカーを利用するかということから入っていきたく思うんです。バスの便数がですね、とても少ないし、目的地に着くまでに色々な場所を回って、とても時間がかかったという経験があります。それに伴って、それだけお金がかかっているという問題があって、マイカーの方がいいなあということになっていると思うんです。でも、高齢者が40%を超えている江田島市で、将来的には、高齢者が色々な事故を起こして問題になっているように、やがてはマイカーに乗れなくなってくる。今現在、バスが少ないからといって、便数を減らしてしまっただけでは、私たち住民は持たなくなってしまうんですよ。ここにも書いてありましたけれど、バスの型、乗れる人数をぐっと落としていけばいいと思うんです。そうすればガソリン代も減ることでしょう。それから、一定時間、例えば30分毎にバスが来るというような所が決まってあれば、どんどんみんな利用すると思うんです。ところが行ってみると、1時間待たないとバスがないというような状況になって</p>

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>るんですね。船の方がですね、30分おきなり、1時間おきなり、決まった時間に来るのが定着しているの、安心して使えるんです。絶対にバスをなくしてもらおうと住民は困ります。「こちらの道の方がいいですよ」というようなことが、沖美町であったという説明が先程ありましたが、そういうところを見て、さらに小さい型にして、「定期的に30分おきにはありますよ」という風に変えれば、必ず利用者は増えると思います。それプラス、市から、船もですけども、もっと支援が欲しいと思うんですよ。「現在、いくらガソリン代がかかっている、運転する方の給料がこれ位かかっている、しかし利用者はこれだけ少ないので、金を充てていきます」ということにしないと、益々離れていくと思います。それこそ支援がないと、私たち将来的には動けなくなってしまう。ぜひぜひ、そうやって欲しいと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。今のご意見の中で、特に利用者から要望の多かった定時運行も去ることながら、運行本数も増やして欲しいというようなこと。あるいは、船との乗継の便を良くして欲しいとか、バスの小型化とか。ご希望が非常に多くなっていますが、これについてはいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>まずは「大型バスを止めて、小型・中型のバスを導入しては」という意見があるようなんですが。平成20年4月1日に江田島バスとして一元化した。一元化というのは、旧江田島町エリアを運行していた呉市営バスが、撤退といたしますか、江田島市に移譲といたしますか、呉市営のバスがいなくなった時のことです。その時にですね、それまでは邪魔になるような大きなバスが1人か2人、時には空気だけを運んでいたんですが、小型・中型を増やしてですね、第3セクターですから、江田島市に支援していただいて、中型を3台、小型を4台、いわゆるマイクロバスみたいな車ですね、それに変わったという状況があります。どの時点を見て「もう少し小さくしてくれ」というのか、「今でも」ということなのか。大型は朝の通勤・通学の時だけ走らせている。車両のやり繰りの関係で1回。2回走っている時もあるが、基本的には、朝の通勤・通学の時だけ。特に小・中学校の統廃合の関係で、「きっちり通学に間に合うように」ということで、朝7時から8時までの間に大型が走っている場所があると思います。それ以外は、中型と小型しか走っていない。</p> <p>あと、便数の関係ですが、やはり平成20年の一元化の際に、当時、自治会の会長を務めておられた委員さんもいらっしゃいますが、江田島地区の自治会の皆さんに集まっていたら、その時も色々な意見が出たんですが、特に小用から術科学校の前、鷺部までにかけての自治会長の意見はですね、「邪魔になる程走っている」ということだった。それ以外の自治会の方はですね、「やっぱり少ない」と。結局、意見がまちまちということなんですね。現在の状態ですが、おれんじ号との調整をしながらの運行に至っているということ。何故そうなったかということ、一応株式会社ですので、どうしても人数が少ない所については、減らさざるを得ないということ。第3セクターですので、先程「空気を運んでいる」ということがありましたが、税金をどんどん使って走るということになりますと非常に心苦しい面があります。そのような状態からですね、段々と便数が減</p>

<p>委員 (つづき)</p>	<p>ってきて、三高から午前中は何とかバスを走らせている。中町側から三高へ行く便については、ほとんどない状態。そういった状況を見ながらのダイヤの在り方になっている。ちなみに当時、100円の売り上げを上げるのに、中町から三高棧橋まで行くのに、最高で2万3千円かかっていた。そんなところをですね、平気でバスを走らせておいて、市民の方が果たして納得するのかなど。そういった全体の中で、現状の在り方に至っておりますので、お汲み取りいただければと思います。運賃の方はですね、安く安くというのは人情ですから、確かに安い方がいいんですが、当社は、平成26年度から消費税が5%から8%に上がってるんですが、一応、現在も据え置き状態で頑張っております。「このままで出来るのか」という問題はあるんですが、採算を計算すると、8%に移行するための諸経費を計算した時に、「ペイできない。回収できる状況ではない」ということで据え置いている訳で、消費税は国庫への預り金みたいなもので、会社の儲けではありませんので、運賃での回収はストップしたという経緯があります。消費税については、平成29年の4月に10%になるんですけれども、この時には、そのままという訳にはいかないだろうと考えています。</p> <p>そういった状況ですから、色々な要望が出ることは分かっています。その要望について、事務局に合わせてお願いしたいんですけれども、この要望については、どれ位の予算が必要という見積もりを合わせて皆さんにお示しするようにしないと、便数はバンバン出て、運賃はどんどん安くなってということは、ほとんど無理だと思うんです。ただ、「どれ位の経費がかかりますよ」ということを市民にも提示してですね、その中で最善を尽くすという格好にしないと、要望・意見は全部聞くということになってしまう。この意見に対する見積もりは、これ位になるというものを示していかないと、言いつ放しになってしまう。「要望しても、市役所は一つも言うことを聞かない」ということになる。「バス会社はいい加減なことばかりして」となりかねないので、合わせてお願いしたい。</p>
<p>議長</p>	<p>それでは次にですね、今の質問の中で、行政の方の支援がですね、バスを始めとして、船もですね、公共交通に関する支援ということに対して、行政はどこまで責任を持ってやってくれるのかという質問が出たんですが、事務局いかがでしょうか。</p>
<p>事務局長</p>	<p>行政負担がどれだけラインまでというのは難しいと思います。ただ、公共交通が、暮らせなくなるような形で確保できないというパターンはないと思っています。そういったラインは守っていかなくてはならないし、死守しなければならないという思いはあります。そこから先の、どれだけ利便性を高めるのかということですが、絶対にこれがなくなると暮らせなくなるというものではなく、利便性の部分については、財源見合いということになってくると思いますので、どこまでの範囲なら出来るか、無尽蔵にお金があるんならやれば良いとは思っていますが、財源というのはどうしても限りがありますので、その中で出来ることを取捨選択しながらやっていくということに、どうしてもならざるを得ない。守らなければならない生活水準、暮らしていくために絶対に守っていかなくてはならないラインについては、行政として絶対に支えていくべきだと思っております。</p>

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

議 長	<p>ありがとうございました。それでは、他に質問はないでしょうか。</p> <p>無ければ、次の資料2の説明を行政の方からしていただきまして、ただいまの質問の事柄も含めて質問を承りたいと思っております。事務局、よろしく願います。</p>
<p>協議事項「江田島市地域公共交通網形成計画の策定について」</p> <p>・江田島市地域公共交通網形成計画の策定について（資料2）</p>	
事務局長	<p>－資料2により説明－</p>
議 長	<p>ありがとうございました。それでは、先程のですね、資料1の中身、課題を含めて、ただいま事務局から説明いただきました計画の策定につきましてですね、スケジュールを含めてですね、ご質問、ご意見がありましたら合わせてお願いします。</p>
委 員	<p>全く素人の質問です。公共交通ということで、「交通関連法も改正された中で」とありますね。市が車を使ってやることには、運輸局の承認とか何とか、すべて網がかぶさってくるものなんでしょうか。と言いますのがですね、よくスポーツ団体などが、子どもらを連れてマイクロバスを借りて遠征に行ったりしますよね。こんな場合には、「こうする場合には、交通法で何と何がなければならない」とか、そういうものがあるんでしょうか。</p>
議 長	<p>では、運輸局の方からお願いします。</p>
委 員	<p>ここに記載されている交通関連法というのは、今回、改正されたのがですね、活性化再生法ということで、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正されたということでございます。ご質問のあった網というのがですね、道路運送法、バスやタクシーなどの事業許可など、こちらの方に書かれている内容に関しては特に改正はされておりません。網という意味では、別の網にはなっております。先程お話のあった形成計画を策定される中でですね、事業者さんの意見で「道路運送法で出来ないことが結構ある」ということは存じ上げております。そういったことは、要望としていただければ、私どもも上局あるいは本省に対して、「こういった意見があるので検討して欲しい」ということを随時伝えていきますので、そこを含めて検討していただければと思います。</p>
委 員	<p>この協議会が出来た時に、江田島バスの社長さんと随分話をして、迷惑も掛けました。市の予算を使って公共交通をやるということで出発したんです。ですから、先程も委員さんからありましたように「絶対に公共交通をなくしてもらったら困るんだ」ということなので、そういうことで立ち上げているんです。したがって、最低限のことは守って、そうじゃないもの、今これだけでなくも出来るもの、先程話しましたが江田島市になる前に、切串あるいは小用、秋月、鷺部もだったと思いますが、老人を対象に江田島町が風呂を沸かして週に1回、江田島町のマイクロバスで、それからシルバーのドライバー、免許を持った人に委託をして、約30人を風呂に入れておりました。これは福祉関係の行事としてやっておりました。目の前に川上スーパーという八百屋さんがあって、そこで買い物をして帰るというのがあったんです。呉市営バスが走っている中でそれをやって</p>

委員  
(つづき)

たんですが、非常に評判が良かったんです。それを何年もやったんです。バスは、赤い羽根か宝くじでもらったものだったと思う。そういったものが、合併して全部なくなったんです。江田島バスさんも非常に苦労されているんですが、週に1回風呂に行って、買い物をして帰りよったんです。それから大須・幸ノ浦では、今のおれんじ号に似たような、やはりシルバーの人が運転して、10人乗り位の車に、タクシーではなく無料で、江田島町が船便に合わせて、身分証明書を示して4、5年やったんです。そういうようなことから、江田島町の人には、「公共交通がそれを全部やってくれる」と思うんです。それを全部やってしまうと、今言われるように、バスの運行ができなくなると思うんです。最低限のところを公共交通でやって、ここのイベントでも、市がやる成人式やら色々ありますが、そういった時に送迎バスを仕立ててですね、送り迎えをしてやるとかですね、公共交通とは別にですね、イベントの時やレジャーの時には、個別にそういう車を交通機関でやると住民は、それを利用すれば何の問題もない訳ですね。今、社協では、買い物のために冷凍用の軽トラで物を運んでいます。これは公共交通とは別に住民からの要望を受けてやっております。このように交通手段が全くの弱者にとって、バスも利用できない、病院に行けない、そういう時には、週に1回あるいは2回位は、バスを公共交通とは別に全部の病院を回るとかですね、福祉関係のことにですね交通手段を考えると。合併する前は、小学校で水泳訓練をやっていたんですね。学校によってはプールがないんですね。そうしましたら、先程買い物で使っていたマイクロバスで小学校の生徒をですね、週に2回位ですね、夏休みに20回位先生が付いて大須小学校で乗せて、宮ノ原小学校のプールに来て泳がせて、それを送り迎えしたんです。町の方は運輸局の方に許可を取ったがどうか分かりませんが、私らは運転手の配車をしておりました。そういうように網のかぶさっていない、あるいは市の方がこういうようなことをやるというのが揃っておるんなら、公共交通としては、最低限の計画されたものを作って、それで漏れるようなイベントのようなものを作って。今日もこの会議の放送があって、私のところに怒鳴り込んできた人がおるんですが、「公共交通の会議に傍聴してくださいと放送しているのに、江田島からここへ来るバス便が1本もないんです」と。朝早く中町の棧橋から三高の棧橋に来るバスはあるんです。それは朝の6時から7時にかけてあるだけです。帰りは今度、夕方だけです。当然、公共交通としては、先程もありましたが、何万円もかかるようなことはできません。「傍聴してください」と言いながら、送迎バスを市役所は一切考えていないんです。だからみんな相乗りで来るか、相乗りできない者は行けないということになる。イベントや今日のように「傍聴してください」というような場合には、「マイクロバスが出ますよ」とか。「市議員や県議員の頑張り会の時には、送迎バスが出るのでワシは行くんじゃ」と言いよります。住民が望んでいることは、そういう交通手段がないということなんです。そういうことが出来るのであれば、これとは別個に市の方で考えて欲しい。そういうことを基本計画に入れれば、「我々のことをこういう風に考えてくれているんだ」ということになる。

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

議 長	<p>分かりました。そうしたらですね、そういうイベントについて、どう行政側は対応していくのかについて、事務局の方でお答えいただけますか。</p>
委 員	<p>回答するのは気の毒なので。駐車場は一杯持っているんです。この前のフェスティバルでも駐車場は確保しています。「どうぞみんな参加してください」と言うんですが、車があるような人はみんな来るんです。車がない人は来れないんです。花火大会でも何でも。そういう人たちは「家からでも見えるから」ということで参加をしないんです、出来ないんです。私は、そういう人たちに手を差し伸べるべきではないかと思うんです。この公共交通一本で行くということになると、江田島バスさんでは一生涯出来ないと思うんです。この協議会の出発点が、呉市営から移る時にですね、「とにかくこの公共交通をやるということだけを自治会に言ってくれ」ということだった。「船との便とか、あるいは本数とかは、やって行く中で直そう」ということだった。</p>
議 長	<p>それでは、お答えにくいところもあるかと思いますが、事務局から回答をお願いします。</p>
委 員	<p>回答は要りません。その都度配慮していかないと、「この計画も絵に書いとるだけよ」ということになる。</p>
委 員	<p>非常に参考になる意見をありがとうございました。地域公共交通網形成計画ということで、地域公共交通網と付いているということで、どうしても公共交通のことだけに捉われがちなんですけれども、そもそもがですね、「地域の移動の足を確保しよう」というのが一番の目的になります。その地域の移動の足というところで、まず何かというと「公共交通だよ」と。この公共交通を維持していくためには、それを使ってもらわないと、維持する必要もないですし、維持することもできない。「どうすれば維持することが出来るかということ、計画の中で検討しましょう」というのがあります。ただ、先程話にありましたように、どうしても地域資源が限られている中で、「全てを地域公共交通だけでは賄えないよ」という部分が出てこようかと思えます。そういった部分について、計画の中で、「公共交通ではないから一切書かない」ということではなくて、むしろそういう部分は「地域公共交通の部分でここまでをみます」と。それ以外の部分については、先程あった送迎バスであるとか、色々な手段があると思いますが、そういった手段についても検討するというように、もちろん計画の中に盛り込んでいくことも検討するべきことになって来ようかと思えますので、「地域公共交通網形成計画だから地域公共交通以外のことは全部話し合わないんだ」ということではなくて、逆に「その公共交通で拾えない部分は、どうするんだ」というところまで含めて検討していただければと思います。先程、それとは別に、運送法上制約があるという話は別のものになると思いますので、別途いただければと思います。</p>
議 長	<p>地域住民の要望が非常に強いものであるということであれば、書き込むことはよしい訳ですね。</p>
委 員	<p>そうですね。地域からこういった要望があると。それが公共交通で確保することなのか、それともそれ以外の手段で確保すべきことなのかを検討するということでも全然違って来ると思えます。</p>



平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

議長	つまり検討課題として、書き記せばいいんですね。
委員	そういうことで、市としても課題として認識しているということが重要だと思います。
委員	ありがとうございました。私もですね、色々やる中で相談を受けて、こういうことがあった。中学校で音楽コンクールが広島であって、楽器とかをバスに全部載せて、シルバーにバスで運んでくれということが先生からあった。「こんなのはいいのか」と言いながら、やってきたのが実情です。
議長	ありがとうございます。事務局の方で何かありますか。
事務局長	先程の催し物の時の移動手段なんですけれども、中にはあるものもある。例えば先程おっしゃられたサマーフェスタですよね、それから先日、青少年交流の家であったフェスティバル江田島であるとか。臨時バスを仕立てて走らせるということで、人が一杯いる時にはそのようなこともやっております。そのような催し物との連携というのが、体系図の(3)の②に1項目入れておりますので、「丸々のイベントでも全てお連れ出来るのか」という問題はあるんですけれども、そういったことも施策体系の中で視野に入れたような感じに出来ればなと思っております。
委員	私は頭からですね、こういう交通手段のものは、許可にならないんだろうと思ってました。
事務局長	実際に運行する場合、先程おっしゃられたようにシルバーさんに委託して運転してもらおうような場合には、「善意でやったのに事故があったらどうするんだ」という問題があるのかもしれない。
委員	江田島町時代はそうだった。
事務局長	今の時代は「まあまあ」というのが難しい。実際のところはプロにお任せして、江田島バスさんに臨時で走ってもらうようお願いしております。実際に、シルバーさんでいいのかどうかという問題は、後で運輸局の方に教えていただこうかと思っております。
委員	公共交通ですから。委員が言われているのは別の問題ですから。市に対して要望してやってみたらいいと思う。これは公共交通の在り方で、どうやっていくかの話し合いであって、委員が言われたようなことは市に要望を出してやっていったらいいと思うんですね。なんでもかんでも話し合うんじゃない。私が一番危惧しているのは、道路交通法の話で、段々と住民が減ってきて、軽トラにお客さんを乗せて運んでお金をもらおうとか、国はそういう方針でやっていますよね。何でもかんでも利便性を高めるために、そこにあるものに乗せてお金をもらう。これは運輸と言って、私はタクシー屋なんですよね。何でもかんでも公共交通になって、ごちゃ混ぜになって。委員さんいいことを言われたんですが、問題点がある。この中で、何でもかんでも話をしていたらごちゃ混ぜになってしまう。ちょっとまずいですよね。江田島市というのは、どんどん過疎が進んでますから、色んな問題が出てきます。問題が出てきた時に、軽トラに人を乗せてお金をもらおうとか。先程、委員が言われたように、シルバーが運転するというのがあるが、白

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>ナンバーですよ。白ナンバーで行って、事故が起きたらどう責任を取るんだということになる。一番あやふやなところは、レンタカーを借りてから運転手を付けるとか、付けないとかあるんですよ。事故がなかったから良かったという感じなんですけど、もし何かあったら大変なことであって、誰が責任を取るのかという問題があるんですね。だから、何でもかんでも、公共交通の場で話をして、自治会のこととか、決して間違いじゃあないんですよ。ただ、これは別の問題なんじゃないかと思うんですよ。いかがでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>その通りだと思います。したがって、今、委員さんが言われたように、公共交通の議論すべき事柄と、そうでない事柄があると思いますので、また、そのことに関しましては、要望が住民の側からあるということは事実でございますので、要望については対応するという事柄です。たまたま運輸局の方が答弁されましたので、それについては事務局の方で検討していただいて、そして、これが住民のニーズとして会議で上がって来ているんだということで、「書くことについては問題ない」ということであれば、それはそれで書いていただくと。ただし、それは実現するかしないかは別の問題で。ましてや今、委員さんが言われたように、もし事故が起きた時とか、あるいは営利に関わることに關して、議論することは対象外になりますので。したがって別途議論をしていただくということになります。そういう住民のニーズがありますと。</p>
<p>委員</p>	<p>だからそれは、市に要望を出せばいいのではないかと思ったんですよ。悪いと言ってるんじゃないんですよ。皆さん、誤解せんってしてください。悪くないんですけど、ただ、お伺いを立てる場所が違うんじゃないかなと。今、ここに副市長も来られてるので。ただ、これは市の方に要望して何とか対応してもらおう方が正解なんじゃないかと思ひます。</p>
<p>会長</p>	<p>今ここで、公共交通の議論をしている中でですね、公共交通で対応できる部分について、まずはこの中で整理させていただいて、公共交通の中で拾えない部分につきましては、違う視点の中で、福祉施策とか様々な視点の中で考えさせていただきたい。あくまでも、法令を遵守したような形でないと、市としては出来ませんので、お互いに話し合いながら進めていきたいと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>そのために、この場で聞かせていただきました。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、時間がだんだんと迫ってきてはおりますが、今日は事務局から承れば、自治会関係者の方がいらっしゃるということで、何かご意見があれば承りたいと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>今もらった資料2の施策体系図の(2)の①のところ、「運賃負担感の軽減の検討」とあるんですね。先程、資料1の説明の中で、住民アンケート調査結果によると、航路について「運賃が高い、料金が低い」「始発や終発の時間を直して欲しい」というのがアンケートの上位を占めていますよね、4地区とも。そうすると、航路を増やすと運賃の方に跳ね返ってくるのではないかと。なかなか両方ともを取り組むのは難しいんじゃないかと思ひます。これを次回の1月中旬にある会議に出す素案の中に、どういう風に記載していこうと考えているのかをお聞きしたい。</p>

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

<p>議 長</p>	<p>ただいまの意見のように、運賃が高く、改善や見直しをして欲しいという住民のニーズ、要望がありますが、それについてどう対応するのかということです。事務局の方からお答えいただけますか。</p>
<p>事務局長</p>	<p>実際のところ、こういった料金に対する要望が多いということは、実感としても非常に分かることですし、確かに1回乗るのにこれだけの値段というのは、割高感はあるなど、すごく理解できる場所です。ただ、どうしても船の場合、バスも含めてですかね、便を走らせるにはそれなりに燃料費はかかるし、人件費も必要になって経費がかかります。それをペイしていかないと走ることができなくなるので、それに見合った料金設定になっているということで、まず第1段階としては、それを踏まえた上で、我々としては議論していかなければいけないと思います。そうした中で、「でもやっぱり高いよね」ということで、運賃削減策をどう考えていくのかということで、「どういう種類のことをやって、対象となる人をどのように設定して、どういった軽減策を講じていくのか」という制度設計的な部分に入ってきますので、まだ1月の段階で「この案で行きますよ」というものを出していくのは難しいかなと思っていますが、ちょっとこの計画の中では、課題意識としては出しておいて、具体策については、この計画をさらに具体化させるという形で検討して行けたらと思っています。運賃軽減というダイナミックなことが、本当は出来ればいいんですが、どうしても江田島市全体で使えるお金は限られていますので、その中で考えていかざるを得ない。ちゃんと走るためのお金を賄える料金をいただきながら、その中で出来ることをやっていくという感じになると思いますので、具体案については、もうしばらくお待ちいただければと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>これだけアンケートを出してもらってるので、それに対する回答をと思って聞かせていただきました。便数を増やせば当然料金に跳ね返ってくるわけで、運賃を下げれば便数が減る。サービスと反比例するもので、素人が考えても分かることなので、住民の皆さんに何かを説明しなければならぬと思い、質問させていただきました。</p>
<p>事務局長</p>	<p>おっしゃることとずれるかもしれませんが、そこをまずは分かっていたく努力が必要なかなと思っています。確かに便数が多い方がいいし、安い方がいいし、誰が考えてもそうであって、出来ることなら実現したいとみんな思っていることだと思うんですね。ただ、「それが出来ないのは何でなんだ」ということになるので、船便を確保したりするには、お金が必要になってくるということです。</p> <p>軽減策については、何が出来るのかということを考えていくんですが、それに取り掛かる前に、そもそも我々としては、「公共交通を守っていこうとすれば、必要なお金がかかってくるんですよ」ということを共通認識としてですね、市民の方々や色々な団体の方にしていくということが大事だと思っています。この施策体系図の(3)には、結構、普及・啓発的なことが入っていますので、「そうしたことをみんなで共通認識を持ちながら、議論を進めていきましょうよ」という取組を進めていきたいと思っています。</p>

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

議 長	<p>どうもありがとうございました。それでは、1月ないし3月には、事務局としては、「まとまれば進めていきたい」というご返事でございました。他に何かご意見は。</p>
オブザーバー	<p>バスの利用がどんどん減っているということで、その件については、「どうやったら増えるか」ということが大切なんです。一つの案を示そうかと思えます。実はこうすると、役所の人間は大変なんです。江田島市の職員、通勤に何を使っていますか」と。沖美町、江田島町、大柿町、色々ありますが、私は民間企業に定年まで勤めていましたが、会社は基本的に「公共交通機関を使いなさい」と。そうしないと交通費が出なかったんです。「どうしても身体的な問題だとか、何もないところなど、特別な理由がある場合には許可する」ということだったんです。江田島市の方では、市の職員のバス利用、公共交通機関の利用について、推奨しているのかなど。私が聞いている範囲ではあまり聞いたことがない。やはり、まずは率先垂範して、市の職員がバスを使う、船を使うという行動をですね、みんなに市民に範を示してもらいたいんです。そうしますとね、我々自治会としても、「市の職員も頑張っているんだ。もう人口も減ってきて大変なんだから、我々も一緒になって頑張りましょうね」ということを、自治会側から各住民に対して提案ができると思うんですが、今なかなか進まないのは、そういう理由も一つあると思えます。確かに「自治会から進んでやれ」という話もありますが、まずは交通費、市の職員の公共交通機関の利用を促進してもらいたいなと提案をいたします。</p>
議 長	<p>ありがとうございました。事務局の方、答えにくいとは思いますが、今の質問に対してはいかがでしょうか。</p>
事務局長	<p>一応、市役所としましても「江田島バス乗るんデー」ということで、毎月毎月声掛けはしているんですが、実際のところ、それでどれだけが乗っているのかという、なかなか微妙なところが多々あると思えます。実際のところ、「公共交通を守っていきましょうよ」ということで、市役所としても言っているんで、通勤だけに限る訳ではなくて、「プライベートでも行けるときは積極的に乗って行こうよ」というのは当然やっていかななくてはいけないと思っております。ただ、まちづくりについて、何でもそうなんですけれども、自分たちが何が出来るのかということをやって行くことが、どうしても大事になってくるんだと思えますので、公共交通を守るという意味では、行政も事業者さんも住民さんも同じ仲間というか、一緒に守っていかなくてはならないものだと感じていますので、市役所も頑張りますので、ぜひ行ける範囲で結構ですので、乗っていただけるよう努力していただけるとありがたいです。お願いします。</p>
議 長	<p>ありがとうございました。それでは、この議題であります。時間が参りましたので、協議事項を終わらせたいと思えます。これだけは言っておきたいということがありましたら承りますが。</p>
委 員	<p>先程アンケートの結果の説明をいただいたんですが、それぞれ通勤とか通学とか通院とか、目的別の調査結果は出ているんですが、おれんじ号とか路線バスに乗ってる方のOD調査はされているんでしょうか。要するに、どこからどこまで</p>

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

<p>委員 (つづき)</p>	<p>行くのかということ。それによって、例えば、その人が、飛渡瀬から宇品に行くという場合に、乗継改善にも絡んできますので。島内だけのODだけではなくて、最終的にバスを使われてどこへ行かされているのかを、もしされているようでしたら教えていただきたいと思います。もしないのであれば、有効な対策が立てづらいと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>今後の対策調査のために必要だということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>はいそうです。それが1点と、先程人口推移のグラフを見ましたけれど、高齢の方が減少する率よりも、島全体の人口が減少するトレンドの方が高い。大きく減っているということなんでしょうけれども。そういったことを考えると、公共交通とは直接関係ないのかもしれませんが、定住促進ということが非常に重要になってくるんだと思います。そもそも人口がある程度いけば、公共交通は維持できる訳で、マーケットに応じて対応すればいい訳です。人口が減って難しくなっているんです。その辺りが検討の出発点なんでしょうから、対症療法もいいんでしょうけれども、原因解消をしようという意味では、定住促進というところも非常に重要なんじゃないかと思います。そういう観点で、直接公共交通だけではなく、そういう観点も必要なのではないかと思います。旅客船の事業者の団体として一つご提案なんですけれども、例えば船員さんの方も船員不足ということで大変なんですけれども、特に島の方で採用する、島の方に住むという条件で採用できる船員さんがなかなかいない。これは江田島だけではなく、瀬戸内海の各地とも。そういった意味では、船員さんに島で生活してもらって、島の始発便からちゃんと乗っていただくと。効率面でも随分と違いますので、そういった面では、船員さんは島に定住していただくという何らかの促進策をですね、それは市の方で、自治体の方の定住促進策と一体として、人材育成あるいは人材確保、船員さんの負担軽減という意味でもご検討いただきたいなと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、事務局、よろしくお願いします。 ただいま2点ばかり、利用者の経路について、調査があるのかということと、もし結果があればですね見せて欲しいということです。それからですね、2点目は、人口減少が非常に大きい。そのためには、定住促進策が非常に重要であると。その辺について、市としては、どのような対策を講じておられるのかということ。それからもう一つは追加でありますけれども、船の運航にあたる方々で、島の生活者がどれだけあるのかどうか。増やしていくことが大事ではないかというようにご指摘でありました。大まかに言うと3点です。</p>
<p>事務局長</p>	<p>ご質問と順番が変わりますが、最初に定住促進についてです。江田島市の方でも定住促進については、色々施策を持っておりまして、新築物件に対する補助ですとか、空き家バンク制度、あとはお試し暮らしということで、短期間、住んでみていただいて、どんな生活なのかを試していただいている。それぞれ定住に関しては、規模感はあるんですが、どの団体でもやっているようなことはやっているんです。たぶん、うちの方がいいんじゃないかというような策は打っております。それで、船員さんを島で採用というお話ですが、定住を促進する阻害要因として、やっぱり一番大きいのは何なのかということ、地方創生の話があったので調</p>

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

<p>事務局長 (つづき)</p>	<p>べてみたところ、「仕事」というのが多かったんです。船員さんであれば、「仕事」の部分はクリアになるということなんで、じゃあ逆にむしろ、「その船員さんが江田島市じゃない所にお住まいになるのは何でなんだろう」というところですね。家庭の事情とかがあるのかもしれないのですが、むしろ船員さんが、「こういう阻害要因があるから住めないんだ」というところを教えていただけたらと思います。</p> <p>あとは、誰がどこで乗って降りたかということについては、おれんじ号については、乗った地点、降りた地点を把握できます。データとしてはあるんですが、分析のところまでは至っておりません。たぶん、ご自宅の近くで乗られて、病院なり商業施設なりの近くまで行くというのがパターンだろうとは思っています。あと港ですね。そういったように、おれんじ号についてのデータは分かります。ごめんなさい、バスの方はどうなんですかね。乗る所と、降りる所は分かるんですかね。</p>
<p>委員</p>	<p>島内の所は当然分かるんですけども、目的の分析ですけども、呉方面のものでしたら、いつのものが分かりませんが、あるかないかと言えばあるんです。呉方面のものを、たまたま持ってました。実は「江田島から呉方面へ乗り込みをしたら、売り上げが上がるか」という調査を平成22年7月にやっております。副市長宛に、市の方に報告させてもらって検討したことがあります。そういったデータはあります。学校とか、通院ですとか、目的別にバス利用客がどれ位いるのかといった調査はしております。</p>
<p>議長</p>	<p>それは平成22年ですか。継続的にはやってないんですか。</p>
<p>委員</p>	<p>平成22年です。こういう形での継続はやっていません。毎年、どこからどこまで乗っていただいているという調査はしております。それはもちろん、提出しなければいけないので。</p>
<p>委員</p>	<p>どこからどこへ乗っているというのは、あるんですけども、切符でもデータでも分かるんですが、どこへ行きたいかが問題で、どこからどこへ行ったというのは簡単に分かるんです。おれんじ号にしても、港で降りても、港が最終目的地ではないので。その先のどこまで行くのかというのが、しっかりとデータを持っていないと、「じゃあ乗継改善にどれだけのコストを払うのか」ということが出てこない。「そういったデータに基づいた対策を立てていけばいいんじゃないですか」という私共の考えです。以上です。</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>実はアンケートを見てもですね、一番大きいのは運賃が高いと。同時に自治会連合会長が申し上げたように、運賃が高いというのが非常に高いウェイトで挙がっております。私は、宇品航路の維持について、極めて島に住む人間としては、永続的に航路が続くと同時に、島に住んで働きに出るのは呉とか広島とか、こんな感じに当然この江田島市ではなっておる訳です。その中で運賃がどうなるかが、島に住めるかどうかの極めて大事なポイントになると。今回の一連の市営船からの公設民営化ということで、現在の姿がある訳ですが、私が一番不思議に思っているのは、検討の過程の中で、完全民営化にいくか、市営船を残すか、3つ</p>

<p>オブザーバー (つづき)</p>	<p>目が公設民営化でいくかということで、この3案の中から結論は公設民営ということになった訳であります。公設民営の意味合いをどう捉えるかということですが、航路の運営自体はですね、「100%民間会社が持ちましょう」と。ただし、使う船の更新に関しては、市がある意味でお金を出して新しい船を造るというように私は受け止めておるんですが、これが間違いなければですね、結果として、完全民営化案と100%同じ形で、公設民営のダイヤ・便数は同じ、運賃も当初あった案と同じで、完全民営化した時の運賃形態と全く同じ。向こう5年間変えないということも全く同じで、「おかしな話だなあ」と、私は常々ずっと分からないんですね。完全民営化で自分で船を段取りし、全ての運営管理に関することを民間会社が持つ形とですね、一方で私が言うことが間違いだったらご訂正願いたいんですが、船の更新に関しては、「市が責任を持ちましょう」というのが公設民営の意味合いのようなんですが、船を維持管理する部分のコストを公設民営の場合は省ける訳ですよ、民間会社の運営に携わる方は。であるならば結果として、相当ドラステックな運賃改定というか、運賃の見直しに結び付けることが当然であるように思うんですが、その部分は市営船でやっていた時と全く同じで、同じ運賃形態でですね、今回のスタート時に設定されておられます。ここの所がですね、公設民営と言いながら、完全民営化と全く変わらないのに、コストは船を更新する時に費用がかからない部分だけ絶対に安くして当たり前の話なのに。そういうことになっていないというのは、どういうことなんだろうかと実は思います。その所を含めて、これだけ厳しい公共交通の問題をですね、あるいは利用者が本当に増えていただきたいんですが、人口減少の中で向こう10年を考える。あるいは、過去の10年間では30万人航路だけでも利用者が減ったという実態を考えます時に、何とか増やすというか、利用人口が減らないような施策を現実的に考えていかないと。いいことを思っている、実態はどんどん先細ると思いますので、公設民営ということについて教えてください。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局お願いします。</p>
<p>事務局長</p>	<p>完全民営というのは、航路の料金もダイヤも運賃も船の更新も全て自前で民間会社がやるという意味ですね。今回の公設民営というのは、料金と便数は、市が条例等で決めています。会社が決めているものではありません。そうした走らせ方の枠組みを決めて、市の用意した船でそれを運航してもらい、運営の部分をやってもらうのが公設民営です。そうした形で、市の持ち物で運航してもらっているという形ですね。そういう違いがあります。実際の所、これをやる前の企業局でやっていた時の経営状況という、1年間で7千万円位の赤字が出ていたのが実態です。これを完全に民間会社の方でやっていたら、たぶんとっくに航路から撤退していたと思います。そうした中で、民間さんのノウハウを発揮していただいて、その7千万円の赤字をない形で運航してもらっているのが今の形ということでご理解いただきたいと思います。本当にすごく儲かるという部分があるというのなら料金のことも考えられるんですが、今は、赤字が埋めれる形でちゃんと走っているというような状況です。あとは今後人口が減っていくということで、旅客の人数も同じように減っていくという現状があるんですが、そこを何</p>

平成27年度 第3回江田島市公共交通協議会（平成27年11月26日）

<p>事務局長 (つづき)</p>	<p>とかするということは、中にいる方に乗っていただくのは当然なんです、外から来ていただく方に乗っていただくというのも重要な要素になると思います。観光客ですね。先程のように定住人口を増やすというのも手になると思います。そうした「観光客に使ってもらって、結果として、市内の公共交通を守っていかうではないか」ということで、視点を施策体系の中に盛り込んでおりますので、「外も含めてやろう」ということで考えておりますので、お知り置きいただければと思います。</p>
<p>議 長</p>	<p>それでは長時間となりましたが、協議事項の方を終わりたいと思います。事務局、最後にお伝えすることがありますか。</p>
<p>4 その他</p>	
<p>事務局長</p>	<p>事前に文書でご案内しておりますが、この後、公共交通事業者の皆さんに、商工観光課の方から説明がありますので、ご案内させていただいております事業者の皆様は引き続きお願いいたします。事務連絡は以上です。</p>
<p>5 閉 会</p>	
<p>議 長</p>	<p>それでは、長時間にわたって審議をいただきありがとうございました。これにて、本日の会議は終了します。</p>